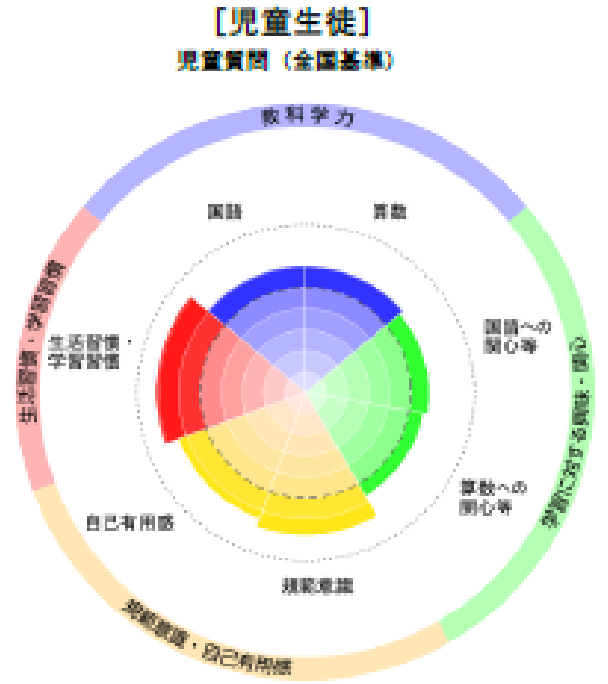


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果より

令和6年4月18日(木)、全国の小学校6年生(19,000校)を対象に、全国学力量習状況調査(国語・算数)が実施され、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が問われました。また、質問調査については、「教科に関する内容」や「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの取組」「ICT 機器活用状況」「学校外での過ごし方」などをオンラインで回答していただきました。

本校の結果を全職員で分析し、今後、取り組むことを話し合いました。ご家庭でも、お子様が持ち帰っている個人票をもとにしながら話し合ってください、引き続き学習面と生活面でのご協力をよろしくお願いいたします。

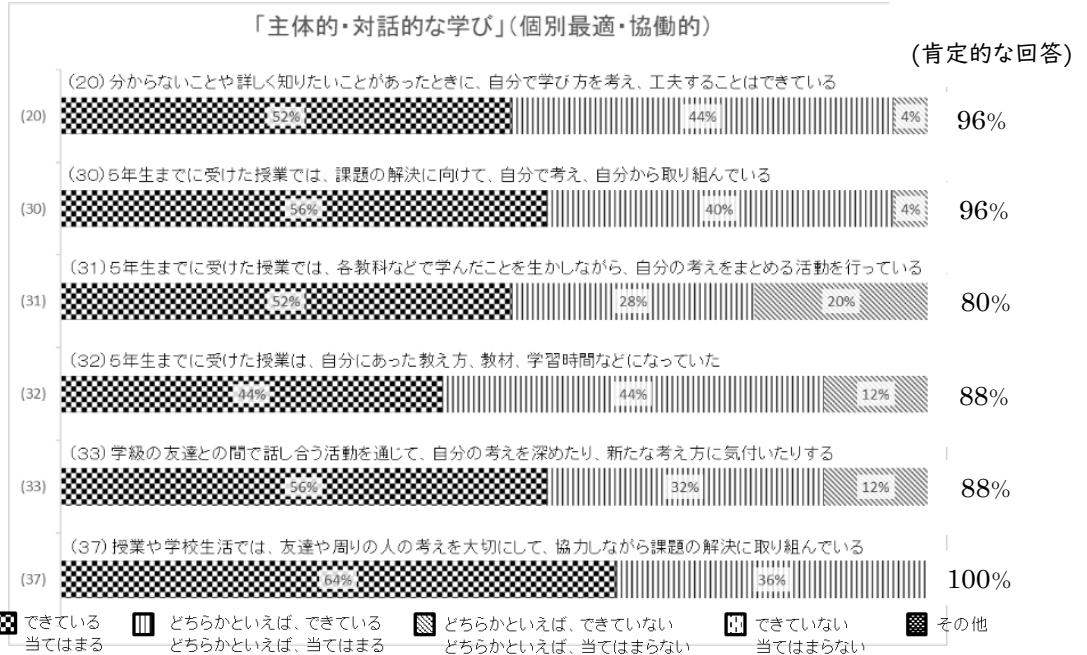
右のグラフをご覧くださいように、全国基準(内側点線)を全て上回っています。また、生活習慣・学習習慣をはじめ、規範意識と自己有用感がきわめて高く、家庭や地域の方との関わり、家族の方からの愛情を含め、得ているものが大きいと感じました。



【質問紙調査】※「できる」=どちらかといえばできるを含む

「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」の取組について

「課題解決に向けて、自分で考え、取り組んでいる」(個別最適な学び)児童は96%。また「友達や周りの人の考えを大切にし、お互いに協力しながら(協働的な学び)課題解決に取り組んでいる」児童は100%でした。まさに、本校の研修テーマ「認め合い 学び合い 自分の思いを表現できる児童の育成」に向けて、一人ひとりが個の学びを十分に生かし、トリプル学習から全体学習へ進め、考えを広げ、深める学びの実感があると考えます。



そのおかげもあり、84%の児童が「自分にはよいところがある」(自己有用感と well-being のグラフ)と答え、自己有用感、幸福度が高くなっています。VUCA (社会変化激しく予測困難)時代の到来で、起こった変化に柔軟に対応し、困難や逆境を乗り越える力が求められています。そこで、自己選択・自己決定できる機会を授業や生活の場で増やし、主体的に学び、生きる力を今後も引き続き育てていきます。

自己有用感と well-being（身体的、精神的、精神的に満たされている幸福）について



来住小学校は、総合的な学習【夢をかなえる科】において、地域の方や縦割り班で人や自然とふれあい、体験しながら学んでいます。そのおかげもあり「将来の夢や目標がある」と答えた児童が88%いました。また「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童が100%でした。

マザーテレサの言葉に「この世の最大の不幸は貧しさでも病気でもありません。自分が誰からも必要とされていないと感じることなのです」とあります。気持ちに余裕がない時こそ、役に立つことをすると自尊心が育ち、大きな財産につながります。自尊心は、家族から十分な愛情を注がれながら育てている証拠です。人の役に立つと「ありがとう」「助かった」と言われます。これは、他者を幸せにし、自分の心をも豊かで健康にして、お互いが幸せになりますね。

ICT 機器活用状況について

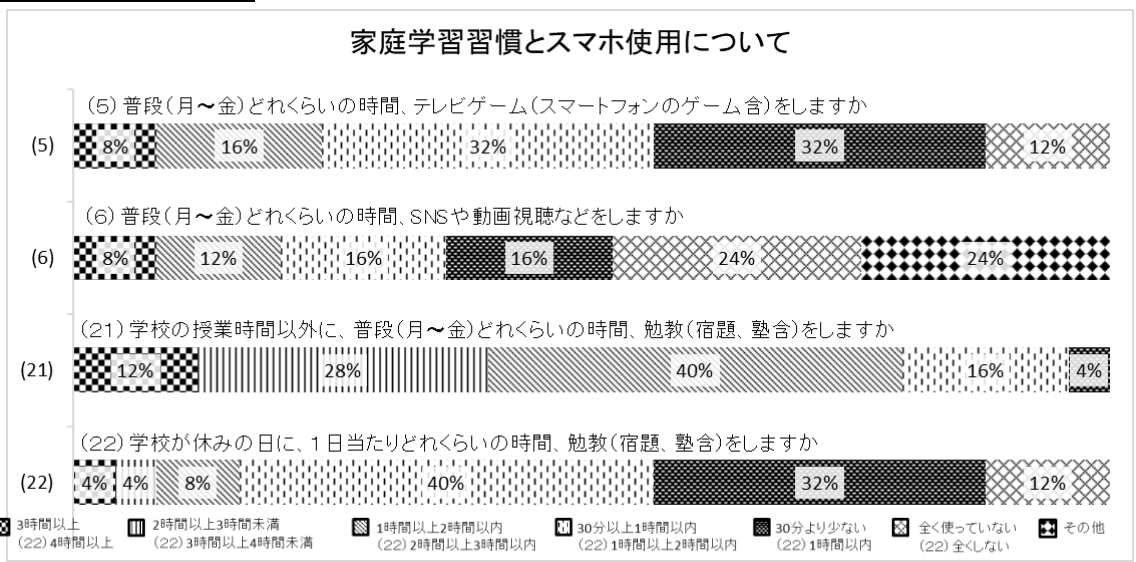


本校は、隙間時間を利用し、自分のペースで画面上の漢字をなぞったり、計算をしたり個の力に合わせた課題へ取り組んでいます。また、自分の考えやまとめを伝えるために、ICTを活用し、友達と意見を共有したり、比べたりしています。84%の児童は「自分のペースで理

解しながら学習を進めることができる」と答えている一方、人と直接関わることに遠慮し、困っていること、分からないことが聞けず、十分な学習を進めることが難しくなる児童もいることを私たち職員は気付かされました。個別最適な学びを進めていくにあたり、ICTは有効な手段の一つですが、職員が丁寧に個を見て、気付き、寄り添った支援を大切にしながら慎重に使用していきます。

家庭学習習慣とスマホ使用について

学校の授業時間以外の勉強時間は、個人差が大きいものの「宿題と塾等で1時間以上」の時間を費やしている児童が平日80%、休日16%で、与えられた宿題をきちんとこなす姿勢が垣間見られます。一方、「テレビゲームや



SNS や動画視聴「1時間以上」20%程度、そのうち8%の児童が、テレビゲームや SNS や動画視聴の4時間以上費やしている実態がありました。学校だより9月号に掲載した【テレビ・ゲーム脳】について、再度、家庭で理由を一緒に話し合い、ルールを決めて約束を守り、正しい生活習慣（夢と希望に近づく）をお願いします。

【国語・算数学習状況調査】

算数の結果分析

算数は、全国平均を上回り、おの検定への取組や各家庭で着実に積み重ねた学びの努力が見られました。全国的に見ると「知識やデータを活用し自らの考えを表現する力」に課題があるとされています。本校においては、記述式問題正答率は大変良好で、書く力はついていると考えます。しかし、「立方体の体積を求める式」「速さが一定であることを基に道のりと時間の関係」「示された情報を基に必要な数値を読み取って式にし、基準値を超えるかどうか判断する」といった理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られました。日常生活と絡めながら、おおよその答えを瞬間でつかむ力が大切であることを感じました。そこで、「見方・考え方」を育て、活用できる知識・技能を学習の中で習得させながら、生活の何気ない場面で、会話を通して生かし、使えるようにしていきます。

国語の結果分析

国語においても大変良好でした。「目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように書く」記述式問題正答率は大変高く、全員が記述していました。「集めた材料を分類したり関係づけたりして伝えたいことを明確にする」「日常的に読書に親しみ、自分の考えを広げることに気付く」の選択式問題は、改善していく必要があります。今後は、知識、技能の理解力を深めるための1つの手法として、「分類」「比較」「関連」「分析」「議論」するなど取り入れていきます。

時代の流れとともに変化し続ける環境と学習にあったものを模索し続け、未来を担う子どもたちのために、教職員が切磋琢磨し、自らの資質向上を図っていきます。そして、子どもたちが学んだ知識を使いこなして説明できる、主体的・対話的な学びのある資質能力を求め続けていきたいと思っています。

家族の皆様にも引き続き「早寝早起き・朝ごはん・コミュニケーション」とともに、読書習慣をつけていただくことをお願いします。読書は、自分の目で見て解釈する質の高い情報収集力、集中力、語彙力、知識と教養、会話力、豊かな想像力、アイデアなどが育ちます。

小野市は、川島隆太教授の脳科学理論に基づき、16か年教育として「脳を育てて夢と希望をかなえる学び」に取り組んでいます。本校も学校と家庭、地域が一体となり、①確かな学力②豊かな心③健やかな体を育てることの3点に力を注いでいます。今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いします。